

まず、放射光研究施設の外部評価に際し、多大な時間と労力を費やしていただいた評価委員会委員ならびに各分科会委員の皆様にお礼申し上げます。また、評価資料作成のために、ユーザーの皆様、スタッフの方々にもご協力をいただいたことに対して感謝いたします。

当初は、3月初旬に評価報告書を出していただけるような予定を考えていましたが、少し時間がかかっているようで、今日この場で初めて聞かせていただくこともありますので、十分なコメントができるか心配なところもありますが、評価をいただいた結果に対して施設としてどのように対応するかについての心構えのようなものを申し上げます。

(1) ビームラインの整備に関して

現在の放射光科学においては、アンジュレータービームラインの重要性がますます増していると認識しており、限られた予算とマンパワーの配分の中で、アンジュレーターやウィグラーの整備にかなりの重点を置かざるを得ないと認識しています。挿入光源の重要性という観点から、2.5GeV リングの直線部の増強は今後行うべき最優先課題と認識しています。実現のための予算の確保、マンパワーの確保の努力を続けます。

現在ビームライン関連業務を担当している研究者が40名弱、技官10名という状況で、70程度の実験ステーションを高いレベルの状態に維持・管理することには、いくつかの問題があると思っています。今回、ビームライン毎に整備状況・性能・研究成果に関してレビューしていただきましたが、この結果をもとにして場合によってはビームラインの統廃合なども今後考える必要があるかと思えます。そのような問題が具体的になった場合には、PACの下の研究計画検討部会で議論いただくこととなります。

(2) 将来計画

PFでの共同利用の課題数、ユーザー数はこの数年ほぼ定常状態にあり日本全国のX線ユーザーのほぼ50%、VUV・SXユーザーの70~80%の研究をサポートしています。またユーザーの分布は全国にまたがっていますが、関東地区のユーザーが50%程度という状態です。PFの将来計画はこのような事実を認識しながら、かつ放射光科学分野での最先端の研究が生み出されることを目指す必要があると思えます。そのようなニーズに応えることのできるハードウェア、ソフトウェアは何かという点がまだ完全に明確とは言えないので、今後ユーザーの皆様と協力して計画の具体化、実現を目指した努力を行いたいと思えます。

(3) 組織運営、評価

放射光研究施設の責務は、共同利用施設・装置等の整備・維持管理・開発、共同利用研究の支援、放射光科学の自らの推進があると思います。これらを限られた数のスタッフでこなすのはかなり大変であるのですが、最近主幹の方々との議論では、1人のスタッフがこれらの業務をすべて同じ割合でこなすよりは、もう少し分業化した方がよいのではないかという議論を行っています。その場合には、その業務に応じた評価基準が必要で施設が健全かつ活発に運営されるための業務を正当に評価することが不可欠と思います。放射光科学を自ら推進することが主たる業務の研究者は、これまで以上に良い成果を出し、ある年限が過ぎたら大学などに移り関連分野のレベル向上、人材育成に貢献してもらえるとよいと考えます。

評価報告書の内容に関して十分吟味する時間がないタイミングでしたので、今後正式な報告書をいただいた後に、その内容を参考にして放射光研究施設の更なる充実に努めたいと思います。評価委員、分科会委員の皆様にも再度お礼申し上げます。